

## 第1章 調査研究の概要

## 1 調査の目的と方法

### (1) 調査の目的

近年、出生率の低下を背景に若年層（15～29歳）の人口の減少が起きてきており、長期的展望に立てば労働人口の大幅な減少が見込まれる。また、高学歴化が進む中、若年層の自発的な離転職の割合がほかの年齢層に比べて高くなってきており、若年層の職業意識の変化が産業間の労働力需要の構成に影響を及ぼすようになってきている。

そこで、本調査では、公共職業能力開発施設（以下、訓練校という。）で職業能力開発を受けている若年離転職者（以下、若年訓練生という。）を対象に、学生時代における職業意識の形成、就職後の職業への満足度、入校以前の離職状況、訓練校への入校理由や期待などを、また、訓練校を修了した若年者を対象に、訓練科と入校前職種との関連、訓練に対する満足度、就職後の状況などを把握し、若年者の職業動向を明らかにすることにより、今後の若年訓練生の職業能力開発のあり方について検討することとした。

### (2) 調査の方法

#### イ アンケート調査

平成6年度から平成8年度の3か年間に能力開発施設16校（県立14校、団立2校）の普通職業訓練普通課程及び短期課程を修了した若年者（959名）を無作為抽出し、平成10年3月に郵送による質問紙調査を実施した。なお、回収率は35.1%であった。

#### ロ ヒヤリング調査

調査対象施設を8校（県立5校、団立3校）選定し、平成8年度に職業能力開発を受けている普通職業訓練普通訓練課程及び短期課程の若年訓練生のうち、修了2ヶ月前の訓練生（143名）を対象にヒヤリング調査を実施した。

### (3) 調査項目

調査の項目は、それぞれ次のとおりである。

#### イ アンケート調査の項目

入校前の状況：入校動機、受講訓練科と前職の関係、転職経験

訓練受講：訓練受講と仕事、訓練内容の要望、就職指導、指導員、  
訓練の満足度

修了後の状況：就職状況、会社の業種と規模、職種内容、会社への満足度、  
訓練と仕事の関連、修了後の転職、将来の職業生活、技能の習得

ロ ヒヤリング調査の項目

就学時：職業意識の形成、職業の向き・不向き、就職先の選定状況

就労時：初職の退職理由、今までの離職回数、職種、勤務年数、仕事へのやり甲斐、  
入校直前の会社の退職理由、再就職先の選定理由

入校時：訓練施設の情報への入手、入校理由、訓練への期待

## 2 調査結果の概要

### (1) アンケート調査の概要

#### イ 性別と年齢構成

回答のあった修了生の性別は、「女性」が62%、「男性」が36%となっている。

年齢構成は、「25～30歳未満」が51%と最も多く、次いで「30歳以上」が27%、そして「18～25歳未満」が21%となっており、若年者層が7割を占め、20歳代後半の者が半数を占めている。

#### ロ 学歴

「高校卒」が61%と最も多く、次いで「短大・高専卒」が25%、以下、「大卒以上」が6%、「中学校卒」が3%となっており、中等教育修了者が6割を、高等教育修了者が3割強を占めている。

#### ハ 転職の有無

半数以上の者（56%）が、入校前に転職を経験しており、25歳以上の年齢層の離転職率が高くなっている。

#### ニ 入校前の職業

入校前の職業は、主に「事務的職業」（31%）や「技能工・採掘・製造の職業」（18%）などに就いた者が多く、女性では「事務的職業」（46%）が、男性では「技能工・採掘・製造の職業」（37%）が多い。

#### ホ 入校の動機

修了生の入校動機をみると、「専門の知識や技能・技術等が習得できる」（70%）、「将来の職業生活にとって役立つ」（56%）、「資格が取得できる」（52%）を挙げる者が多い。

#### ヘ 前職と訓練科の関連

また、訓練科の選択に際しては、入校前の職業と「関連があった者」と「少し関連があった」者で38%を占めるのに対して、全く「関連がなかった」者が60%となっている。

#### ト 訓練への満足度

修了生が、訓練にどの程度満足していたかを次の7項目でみてみよう。

- 1) 「指導員の数」については、概ね満足している者が88%を占めている。
- 2) 施設・設備の状況については、79%の者が「満足としている」のに対して、20%の者は「改善」を求めている。
- 3) 訓練教材の内容については、概ね満足している者が80%を占めているが、指導技法の工夫に関する要望も多い。
- 4) 訓練期間については、概ね満足している者が65%を占めているが、一方、27%の者は、もう少し訓練期間が長ければより満足のいく訓練が受けられるとしている。
- 5) 基礎的な技能・技術の訓練内容については、83%の者が概ね満足している。
- 6) 専門的技能・技術の訓練内容については、概ね満足している者が71%、やや不満な者が26%となっている。
- 7) 修了後の進路や就職指導については、概ね満足している者が63%、を占めているが、不満を感じる者が38%もいる。
- 8) 訓練全般にわたっての満足度をみると、概ね満足している者が86%を占め、不満足を感じている者が13%を占めている。

なお、自由記述・意見に詳細をまとめているので、参照されたい。

#### チ 訓練の仕事への反映度

- 1) 学科では79%の者が、実技では82%の者が、「仕事に役立っている」としている。
- 2) 資格取得は、61%の者が「仕事に役立っている」。
- 3) 規律、責任感、協調性の指導は、83%の者が「役立っている」とし、団体生活の大事さ、責任感、協調性等の重要性が理解されている。

#### リ 強化して欲しい訓練内容

訓練内容に関する要望は、「専門知識」(43%)や「資格取得」(40%)に多く、「OA機器操作」(32%)、や「実習内容・時間」(31%)に関する要望も多い。

#### ヌ 就職指導

企業情報の提供、職業適性の相談、求職活動、職場の人間関係などについて、訓練校の就職指導は、「役立った」とする回答に対し、「役立たなかった」、「やっていなかった」との回答があるが、いずれも適切な就職指導が求められている。

#### ル 就職、転職の状況

就職者数は、調査時点において78%である。働いている会社の業種は、製造業(21%)、サービス業(20%)、建設業(14%)の順となっており、会社の規模は、「29人以下」が47%、「30～99人以下」が23%、大企業は18%となっており、中小企業への就職した者が多い。また、修了後の転職をみると、28%の者が転職していた。

#### ヲ 職種の内容、訓練科との関連

修了生の職業をみると、77%の訓練生が訓練科に関連した仕事に就いており、「技能工・採掘・製造の職業」や「事務的職業」(それぞれ33%)に就いている者が多い。

#### ワ 会社への満足度

仕事については68%の者が、賃金については47%の者が、概ね満足としているものの、賃金に不満を抱く者が52%もいた。

#### カ 職業に対する現在の希望

「現在の会社で働きたい」と「転職して他の会社で働きたい」がそれぞれ29%を占め、「独立したい」が16%となっている。

#### コ 今後の技能習得

修了後も職「訓練校」(71%)、「専門学校」(53%)、「職場」(53%)などで、習得した技能をさらに向上させたいと望む者(95%)が多かった。

### (2) ヒヤリング調査の概要

#### イ 若年訓練生の概要

工業系の訓練生が6割、事務系の訓練生が3割弱を占め、男女別構成は女子が3、男子が2の割合となっており、ほとんどの訓練生が20歳代の訓練生であった。

#### ロ 就学時の動向

就学時における職業意識の形成状況をみると、職業意識の形成がなされていた者が3、なされていなかった者が2の割合となっており、女子は男子に比べて早くから職業意識の形成がなされている者が多い。

職業意識の形成ができていた者ほど就職がスムーズに進み、また、自分に適した職業に就いており、初職の選択に疑問や後悔を抱いていなかった。

## ハ 就職後の動向

6割強の者が初職に留まっていたのに対して、職業意識の形成がなされていない者ほど離職回数がやや多い。なお、平均離職回数は1.5回であった。

また、初職を離職する者は、2年で4割、3年で6割、4年で7割と増しており、仕事にやり甲斐はある(7割弱)ものの、「自己都合」(7割弱)や労働条件(5割弱)を理由に離職している。しかし、1回離職を経験した者は、多少労働条件が厳しくても会社に定着する傾向にある。

再就職時には、今までの自分の「仕事内容・資格・経験」、周囲の人からの紹介などにより再就職している。

## 二 再就職に向けて

「事務的職業」(3割強)、「技能工」(3割弱)、「技術的・専門的職業」(2割弱)を経験した者が、「職業安定所」(6割弱)などから訓練校の能力開発情報を入手し、「技能習得」(9割強)を目指して、訓練校に入校してきている。

なお、現在受けている訓練内容等の充実・改善を望んでおり、習得した技能・技術を再就職先で活かしたと考えている。